

衆議院農林水産委員会ニュース

平成 22.5.25 第 174 回国会第 13 号

5 月 25 日（火）第 13 回の委員会が開かれました。

1 農林水産関係の基本施策に関する件（口蹄疫の発生状況及びその対応について）

- ・赤松農林水産大臣、松野内閣官房副長官、山田農林水産副大臣、松下経済産業副大臣、大串財務大臣政務官及び佐々木農林水産大臣政務官に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

道 休 誠一郎君（民主）

- ・宮崎県における口蹄疫対策の実施状況について、農林水産大臣はどのように評価しているか。また、口蹄疫発生の終息に向け、どのように取り組むのか。
- ・現地対策本部における指導体制、関係機関による対応状況について、農林水産副大臣はどのように考えているか。
- ・野生動物への感染防止対策について、どのように取り組むのか。

川 村 秀三郎君（民主）

- ・口蹄疫の発生原因、感染ルートが明らかになっていなければ有効な対策を講ずることができないと考えるが、どのように認識しているか。
- ・ワクチン接種家畜に対する殺処分奨励金について、時価評価の具体的方法はどのようなものか。
- ・口蹄疫問題への対応策について、財務省はどのように考えているか。

江 藤 拓君（自民）

- ・宮崎県家畜改良事業団の種雄牛 49 頭の取扱いについて、地元では殺処分することに対し賛否両論があるが、農林水産大臣はどのように考えるか。
- ・口蹄疫問題に関し、畜産対策のみならず経済・景気対策等を含めた対策をパッケージで早急に示すべきと考えるが、内閣官房副長官はどのように考えているか。
- ・口蹄疫発生の影響を受けている地域産業への支援策について、経済産業副大臣はどのように考えているか。

森 山 裕君（自民）

- ・ウイルス対策は科学的根拠に基づき行われるべきと考えるが、口蹄疫への対応状況について、農林水産大臣はどのように認識しているか。
- ・農林水産省の牛豚等疾病小委員会（4 月 20 日）終了後、小委員長が発生農家から半径 1 km 以内の抗体検査を実施すると発言していたが、検査が行われなかった理由は何

か。

- ・殺処分・埋却等の防疫措置を速やかに行う必要があると考えるが、どのように取り組むのか。また、防疫措置完了の見通しはどのようなものか。

谷 公 一君（自民）

- ・口蹄疫に係る初動対応について、農林水産大臣はどのように認識しているか。
- ・家畜伝染病予防法の枠を超えた支援及び新たな法制度の必要性について、農林水産大臣はどのように考えているか。
- ・国の全額出資により口蹄疫対策に係る基金を創設し、地元の要望に応じた支援を行うべきと考えるが、農林水産大臣はどのように考えるか。